

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問診療導入シートを使用することで得られた効果と改善点
演者名	坂本 修、木村 幸博、菊池 勝子
所属	医療法人葵会 もりおか往診クリニック

目的

当クリニックでは、訪問診療の依頼を受ける際に生じる負担軽減や伝達ミスの防止を目的として、平成 26 年 3 月から群馬家庭医療学センター前橋協立診療所が作成した訪問診療導入シート Ver6 を一部改編して活用している。そこで得られた効果と改善点を報告する。

実践内容

病院医療相談室やケアマネジャーなどの紹介元と、その紹介を受ける当クリニックのスタッフにそれぞれアンケート調査及び聞き取り調査を行い、訪問診療導入シートを使用する前後の変化を比較し調査した。

実践効果

これまで当クリニックで使用していた患者紹介受付表では、現在の医療処置や身体状況、家庭環境や介護保険サービスなどを確認するものであったが、この訪問診療導入シートの使用後は、病状説明の内容やその病気に対する解釈、訪問診療への期待など診療情報提供書からは得られにくい患者のナラティブな情報も得られるようになった。退院時共同指導や初診前に患者像の把握が正確かつ容易となることで、効率的な面談や初診ができるようになった。

考察

訪問診療導入シートを使用するようになり、当クリニックでは効率的な面談や初診につなげることができるようになったが、それを記入する紹介元の負担は増大した。それを記入するために多くの時間と労力を紹介元が費やしている現状を改善しなければならない。現行の項目の中には不要な部分もあり見直しが必要であると考え。情報の多さと情報の質は必ずしも比例するとは限らないため、より効率的な項目の選定をする必要がある。その項目を検討した上で現行の訪問診療導入シートを改善し、患者情報の共有化の質向上と紹介元の負担軽減を図っていきたい。